

【参観記】全国郵趣大会2025in長崎（併設：九州STAMP・SYOU）に参加して

矢羽田教昭

全国郵趣大会には福岡が会場だったとき以来の参加であった。

長崎の伊藤氏から九州STAMP・SYOUに昨年のスタンプショウはかたに展示した「年賀切手と年賀印」を展示しませんかと打診され、了承しました。作品を持ち込むついででも有り、長崎に行くことにしました。

往復は西九州新幹線を利用しました。JR九州のチケットはWEBで購入したのですが、最寄り駅の二日市駅から長崎駅まで買うと往復1万円を超えます。そこで博多駅から長崎駅にすると往復9千円ですみます。二日市は博多から長崎の途中駅ですので不思議な感じ。実際には早割が使えたのでさらに安く8千円程度でした。ただ、博多長崎間切符はリレーかもめと云う特急列車を利用するのですが、利用する時間帯は二日市に停車しません。そのため、別列車で鳥栖駅まで行って特急に乗り込みました。無事乗れて良かったです。

前置きが長くなりましたが、郵趣大会会場のホテルには2時間前に到着しました。持参した作品を所定の場所に展示しました。九州各地の諸氏の作品が多数有り、展示作業を手伝いましたが、とても大変で開場ギリギリまで作業をしていました。

参加者は日本郵趣協会理事長山田廉一氏をはじめ多士済々の60名ほどでした。開会挨拶のあと、顕彰事業セレモニーがあり、郵趣活動賞に当支部の松井恒雄氏が受賞されました。全員で記念撮影の後、3氏の記念講演があり興味深い話を聞くことが出来ました。

その後、6つの分科会があり私は水谷行秀氏の「グリコと他社の切手キャンペーン」を拝聴しました。公表されている話の他、収集裏話や今後の展開など大変参考になるものでした。

記念パーティ参加者が持参したワンリーフ展があり参加者による人気投票がありました。その結果発表が記念パーティであり、私の展示した「平等院鳳凰堂の無目打」は2位でした。多くの方が興味を持たれ、いろいろな方と話が出来、良かったです。

最後はチャリティーオークションがあり、10点ほど落札しました。表紙に載せた「軍艦島の端島郵便局」の他、江戸時代の飛脚、大連大阪間の飛行郵便、FDC松屋版第1号2枚組、林家木久扇直筆のはがき、和欧文大村局のエンタなどを格安で入手できました。

長崎支部および関係者の皆様、準備大変だったと思います。無事成功裏に終わられたことお喜び申し上げます。参加できましたことうれしく思います。皆様、ありがとうございました。

【表紙について】

長崎で開催された全国郵趣大会のチャリティーオークションで入手したもの。軍艦島の端島（はしま）郵便局は明治40（1907）年3月18日に開局し、昭和49（1974）年4月18日まで営業していたとのこと。ただ、無集配局だったことから郵便使用の消印は書留等に限られ、現存する多くは為替印である。一般の郵便物は高島郵便局か長崎郵便局で処理されたようです。表紙は為替印ではあるが、貴重なもの。（矢）

【お知らせ】

大名公民館文化際のお知らせ（時間は昨年のもので変更の可能性があります）

日時：令和7年11月3日（日）10:30～15:00 入場無料

各サークルからは、芸能発表、作品展示、バザーの出店がされます。

当支部からも、1リーフ展を抜粋した作品を展示して参加します。

なお、当支部は、前日の14:00から作品展示の準備を、当日の14:30～15:00まで作品の監視を担当しています。

げんかレ、661

軍艦島の端島郵便局



長崎・端島 16.4.2 為替

【落札品紹介】

スペースが空きましたので、長崎でのチャリティーオークションで入手したものの一部を紹介します。



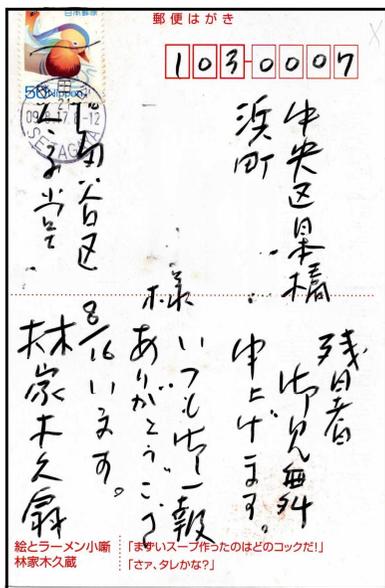
飛脚便



大連京城大阪間飛行郵便



和欧文日付印
大村局
エンタエアの一部



林田木久扇直筆はがき



東海郵趣連盟が初めて松屋にカバー作成依頼
松屋版FDC第1号カバー2種である。
(出品者説明による)